

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	昨年に続き、今年も法人や県、全国組織の活動方針をそれぞれが学習すると共に、職場目標を設定し、それを共有することで実践につなげている。	全国組織の目標及び事業所の年度目標に加え、今年度から事業所独自のモットーを作成し、事業所の目指すべき活動の方向性をより明確にしている。	毎年、利用者本位のサービス向上のための新しい活動が行われています。今年度の電子カルテ導入では、利用者の情報共有に格段の進化がありました。出来る事から無理なく着手される、そのご姿勢の継続を期待しています。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度は地域との活動がほとんど行えていない。今後、感染対策との兼ね合いを見ながら、新しい繋がり方を見つけていきたい。	新型コロナウイルスの影響で、地域との交流活動は停滞しているが、新しい形での交流方法を模索されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は活動が行えていない。 法人の支部活動(古牧・大豆島地区)に職員が参加して、施設の現状や質疑応答に対応はした。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度の開催はしているが、今年度は集合開催が行えず、ほとんどが会議録を配布して意見があれば質疑応答をするという形で行っていない。	密を避けるために、運営推進会議は議事録の回覧やFAX送信を用いて実施されている。また、会議では、利用者やサービスの状況を議題としていることが、丁寧に作成された会議録から確認できる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議での報告は行っている。 また、事故報告書は今年度は6件報告を行っている。	運営推進会議の結果は、地域包括支援センター職員、市役所担当課の職員に報告されている。また、事故報告書の発行は時機を得ており、事業所内の出来事を市町村に伝える、透明性が確保されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員に対しては定期的な学習会の中で学ぶ機会を設けている。身体への直接的な拘束は行っていないが、職員が手薄になる夜間帯のユニット入り口の施錠のみ行っている。	身体拘束に関するマニュアルの学習会をWEB研修で行っている。また、マニュアルを基本としながらも、毎月のカンファレンスでケア方法の見直しを行い、拘束の必要性について討議している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員に対しては定期的な学習会の中で学ぶ機会を設けている。職員の利用者に対する言動については皆で指摘しあえる職場を目指している。		

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が学んでいる。必要性がある時には各職員に学習を促す方針。 成年後見制度を利用している方は1名。対象になりそうな方は2名いらっしゃる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や改定時は、書面や必要に応じて口頭で説明を行い、理解していただいた上でご署名を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議では今年度もご家族は参加できていない。 面会時、訪問時に頂いた意見は職責者に報告され、改善に向けて対応している。	今期から導入した電子カルテの利用により、面会等で訪問されたご家族のご意見や、利用者のご意向等を、職員全員で共有できる仕組みが機能している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職場会議、面談を通して意見を聴き、提案を受けて運営方法を改善したり対応したりしている。	毎月の職員会議や面談、日々のコミュニケーションなどの機会を通じて、職員の意見や提案を受け付け、運営方法に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員や労働組合員などが運営に関わったり、職員からの意見を聴いたりする中で、働きやすい環境に向けた意見を聞き入れてくれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTとして現場での実践を通じた研修を行うと共に、今年度はオンラインによる研修機会を確保し、全員が外部の研修に参加できるようになっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度は外部研修への参加機会の確保ができず、交流が行えていない。		

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時から各職員がそれぞれコミュニケーションを取る中で本人の思いを汲み取る事に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居申し込み時はもちろん、入居後も随時家族と交流する中で関係構築に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時点の本人及び家族にとって最優先すべき支援をコミュニケーション及び話し合いを通じて確認し、迅速な対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は利用者との共同生活の場という意識を持ち、関係構築に努めているが、徹底は出来ていない。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は家族と本人の関係性を尊重し、家族に負担が無い範囲で支援の協力を求めている関係性の構築を目指している。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>現在はコロナ禍であり、以前ようなコミュニケーションを図ることは困難であるが、その中でも出来る限り関係の維持に努めている。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、感染予防を優先しているため、外出には滞りが生じている。一方、タブレット端末の利用により、居室と面会室間のテレビ会議が可能となり、新しい様式での面会を実施している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>日々の生活の中から利用者間の交友関係を把握し、孤立を招くような事態の予防はもちろん、良好な関係が維持できるよう支援している。</p>		

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の支援を受けながら、これまでと同じ美容室に通ったりしている。 面会制限で会えない期間が多いので、写真を配布したり手紙を送る機会を作るなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者毎の思いや希望、意見は全職員で共有し、出来る限り実現するよう努めている。 困難な利用者については職員間で話し合う場を設けて検討、実施に努めている。	日々の支援の中での「言葉がけ」を大切にして、利用者のご意向の把握に努められている。また、電子カルテの利用により、職員間の情報共有の精度が向上している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者個々に関わる際に会話の中で様々な情報を得よう努めている。 また家族の来訪の際などに必要な情報の聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者毎の生活リズムや心身の状態を把握し、異変のある際は早期発見に努めている。 残存能力を維持するために過介助にならない様心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の介助の中で課題が出てきた際はその都度職員間で話し合っている。また家族や他業種との連携や意見が必要な場合は連絡を取り合い利用者にとってより良い生活のための介護計画の作成に努めている。	定期的なモニタリングに加え、医師の往診や、日々の申し送りの中から得られた情報をもとに、ケアの見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員個々が様々な記録を行い、その情報を皆が勤務前に読了することで共有し、統一した介護を行っている。またそれを介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームという小規模施設の特性を活かしたサービスの中でより自宅に近い生活が送れるよう利用者毎に柔軟に対応する様努めている。		

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との協働は今年度はほとんど実践できていない。 昼食の差し入れボランティア、草取りのみ継続している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隣接する同一法人のかかりつけ医との連携は良好であり、月に一度の往診以外にも必要に応じて受診を行っている。受診の際は本人及び家族へ報告し了承の元行っている。	主治医の選定は、ご家族等の意思を尊重しているが、隣接する診療所の医師の関わりの深さから、多くの利用者が同医師を主治医としている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中で気づいた異変を皆で共有し、週1回の訪問看護師の他、緊急時などは適宜隣接する診療所の看護師に伝え、必要に応じて受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の搬送先は同一法人の総合病院であるため情報交換や他業種との連携もスムーズに行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針を作成し、入居時には説明し、その時点の意向を確認している。入居時や状態変化時、医師を含めて本人、家族の意向を踏まえて対応について検討できている。 看取りの場合には面会制限を緩めるなどの対応も行っている。	入所時に家族の意向を確認しているが、重度化した場合には、随時、主治医を交えて担当者会議を実施している。また、電子カルテでそれら情報を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時及び事故発生時のシュミレーションは会議や勉強会で定期的に行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を行い、災害時に備えている。 備蓄についても定期的に購入入れ替えしている。 水害時の避難計画書を変更して作成しなおした。	水害時の避難計画書は、最新のハザードマップに基づき更新されているが、地域資源を利用した更に現実的な対応を模索中である。また、火災・地震訓練は計画通り実施されている。	

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者毎の性格や個性を把握することで、一人ひとりの尊厳を尊重した対応に心掛けている。	認知症に関する専門的な知識、接遇、また不適切なケアに関する学習会を行っている。また、日々のスタッフ間の確認により、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で声掛けの仕方を工夫することで利用者の意思表示や自己決定のしやすさに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活において利用者のペースを最優先にすることを目標としているが、ユニット全体として徹底されていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の整容への気配りはもちろん、本人や家族の希望に沿うことでおしゃれを楽しめるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の食事の好みを把握することで定期的に食事に反映させたり、行事として催したりしている。	利用者の嗜好を、実際の食事を見て判断して献立を自前で作成している。また、利用者個人の意向を反映して、下ごしらえや調理等への協力を頂いている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量は毎日観察しており、少ない場合は補助食品で補っている。また嚥下能力やADLに応じて食形態をその都度検討し変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各食後の口腔ケアは徹底されており、利用者の能力に応じて声掛けや物品の手渡し、介助で対応している。		

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄に関する残存機能を維持することに努めており、出来る限り失敗なくトイレで排泄することを目標としている。	排泄記録を作成し、ひとり一人の利用者の状況を把握して支援している。また、必要に応じて、残存機能の維持を心がけた、職員2名による対応も実施されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の記録を日々残すことで利用者毎の排便パターンを知り、看護師や医師との相談の際に下剤の調整に役立っている。施設としては水分の促しや腹痛の有無の観察に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	目安として週2回の入浴を原則としている。利用者によって拒否される場合は時間や日にちをずらして対応することで、概ね入浴できている。	利用者の希望には、可能な限り沿うように対応している。また、ユニット1(1丁目)には、リフト設備があり、2丁目の利用者も利用可能となっている。なお、評価当日は「ゆず」風呂の日であった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者毎の生活のペースや疲労度を把握することで安心して安楽な休息に繋がれるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬についての知識や注意点は主治医および担当薬剤師との連携でスタッフに周知されている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者毎の生活歴を参考にしてより個別に張り合いのある施設生活が送れるよう工夫しているが、全員に出来てはいない。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナ禍で家族やボランティアの協力が可能な大規模な外出は困難であるが、個別に施設周辺を気分転換の散歩は行っている。	感染予防のため、制限が多い中ではあるが、秋にはドライブとして、全利用者に対して最低1回の外出の機会を確保している。	

グループホーム南長池れんげそう2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ほとんどの利用者様は、個人での金銭管理は行っていない。また、お金を使用できる機会が持ていない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>日常的な手紙のやり取りはないが、ご家族にハガキを出せるよう支援する機会を設けている。電話の希望があった時には、ご家族に本人の意向が伝わるよう介入することもある。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>皆が集まる食堂の壁には皆で作った四季折々の作品が飾られており、季節を感じることが出来る。しかし離接防止センサーを設置しているため時々音が鳴り、利用者によっては不快に感じられている。</p>	<p>リビングダイニングは、天井が高く、採光が考慮された明るい造りとなっている。感染予防のために、テーブルなどのレイアウトが変更されているが、全体的な生活の利便性や雰囲気には影響は生じていない。また、換気や加湿も十分に行われている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間では概ね各自の席が決まっているが、自由時にはそれぞれ好みに移動されており、利用者毎に時間を楽しんでいる。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個室の空間は本人にとって居心地の良い空間にするため家族に依頼し、馴染みの物品を持ち込まれる利用者もいる。</p>	<p>ベッド以外は持ち込みが自由であり、利用者のご家族などの嗜好を反映した生活空間が創られている。また、BS放送も視聴可能である。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個室の空間は本人にとって使い勝手の良い空間にするため家族の意見を参考に職員間で適宜検討している。 トイレなどの共有スペースは手すりなどを配置し、自立支援に努めている。</p>		